

待ち構えた大きな壁

ハードル

行く手を阻む

栗沢頭首工

サケは川で卵からかえり、4年間を海ですごし、産卵のために嗅覚を頼りに生まれた川へ帰ります。

平成20年から青年会議所とハサンベツ里山計画実行委員会が中心となり稚魚の放流事業を続けてきました。放流を始めて5年、昨年10月に、ふるさとの匂いを嗅ぎ分けてたくさんのサケが帰ってきました。専門家によると100匹はいたといいます。

しかし、帰ってきたサケには大きなハードルが待ち構えていました。夕張川の栗沢地区に位置する栗沢頭首工。3段の落差からなるこの頭首工が強い流れを作りサケの行く手を阻みました。サケは何度も何度も落差を乗り越えようとしたが、ことごとく激しい流れに飲み込まれました。

夕張川には間違いなくサケがいた

栗山町にも昔はサケが遡上していました。幼いころから角田に住む泉幸子さん(90歳)はいます。泉さんが当時小学生だった昭和5年ころ、父の廣遠(ひろとほ)さんが夕張川でサケを釣ってきた記憶があると。当時、サケが自然に遡上していたことが分かります。川は今よりも遙かに綺麗で、泳いだり魚を捕まえたりよく遊びに行っていたそうです。

しかし、昭和15年ころになるとポンアノロ川にあった洗炭所の影響を受け、綺麗だった夕張川は石炭で黒く染まってしまうました。さらに、昭和34年には栗沢頭首工が完成し、サケが遡上する可能性が途絶えてしまったのです。

栗沢頭首工は岩見沢市の栗沢地区へ農業用水を引くため

に作られました。その栗沢頭首工がある限りサケは遡上することが出来ないのでしょうか。また、なぜサケを帰らせようとしているのでしょうか。そこにはどんな意義があるのでしょうか。

サケを帰そうとしている団体の取り組みから、まちづくりに対する大きな思いがみえました。

笑顔あふれるまちを未来に残したい

栗山青年会議所では、平成20年より夕張川にサケを帰そうと取り組んでいます。地域の皆さんに、ふるさとを流れる川に愛着を持ってもらおうという狙いがあります。

私たちはまず、夕張川を学ぶところから始めました。昔はサケが遡上していたことや、夕張川の状態がサケの産卵場所としてはあまり良い状態ではないこと。なにより栗沢頭首工があるため、栗山まではあと一歩というところで帰ってこれないことを学びました。

サケはまだ遡上できませんが、昨年の9月に河川清掃を企画しました。この呼びかけにたくさんの方が参加し

れました。川の中には、タイヤや肥料袋、空き缶などさまざまなゴミが捨てられていましたが、参加者が清掃する姿を見ていると川づくりを通してまち全体に一体感が生まれていると実感が湧いてきました。

サケを卵の状態から4月の放流時まで飼育してもらう『サケの里親事業』も実施2年目になりました。子どもたちに命の大切さや、きれいな川づくりの大切さを感じてもらいたいのです。

私はサケが栗山まで戻ってくるのがゴールだとは思っていません。川づくりを通して、皆で考えあい、まちを良くしていくと行動しあうて良いまちづくりにつなげていくことが目的です。

サケは栗沢頭首工があるため栗山まで遡上できないでいます。しかし、栗沢頭首工により農業用水が送られている地域があることをしっかりと認識しなければなりません。農業用水の機能を損なわないような形でサケが遡上できるように整備されることが望まれます。そして、サケが元気にふるさとの川に戻ることを願っています。

右写真：昨年9月に行われた夕張川の支流「雨煙別川」での河川清掃。サケが産卵しやすい環境作りにも取り組んでいる。

左写真：岩見沢市栗沢地区にある頭首工。昨年初、100匹にもおよぶサケの遡上が確認されたが、頭首工の落差を乗り越えることができなかった。



一般社団法人 栗山青年会議所
飯尾隆亮 理事長





【専門家から学ぶ】夕張川シンポジウム

サケを帰す意義

2013.1.25 雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス



積丹町地域おこし環境生態
保全技術指導員

水産科学博士 河村 博さん

元北海道立水産孵化場の
場長。サケの生態にかか
わるスペシャリスト。

森・川・海のつながりと サケ・マスの役割

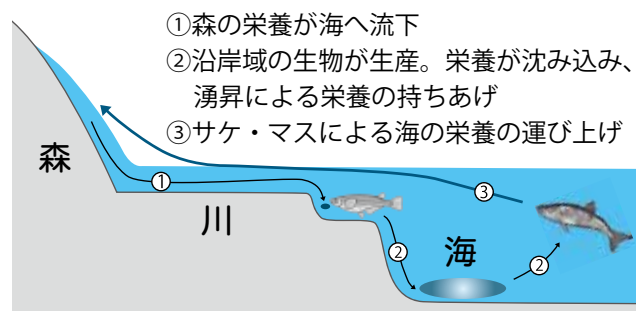
サケ・マスは自然界にとって大きな役割を持っています。

サケ・マスは海から遡上するため、海から川、川から森へと栄養を運ぶことができます。森は海が持つ貴重な栄養分をサケやマスからしか受け取ることができません。昔はサケやマスが遡上していたため得ることができていた海の栄養素を今では得られなくなっているのです。

森は栄養を川から海へ送り出しています。そのためサケ・マスが帰る川と帰らない川では、海に到達する沿岸部の海水の栄養素が異なります。

森・川・海に役割があるように、サケ・マスにも森に海の栄養を届けるという役割があるのです。サケ・マスを遡上させることは、自然界にとっても大きな役割を果たすことになるのです。

サケ・マスによる生物ポンプの流れ



流域生態研究所

所長 妹尾優二さん

多くの自治体の川の再生
にかかわる。国から夕張
川の河川調査も請け負う。



川が変われば地域が良く なり人がつながる

川づくりを通して今までかかわってきたほとんどの人は声をそろえて『昔は良かった』といいます。

昭和 40 年代後半、近代化の名のもとお金のある自治体では農業土木が盛んに行われてきました。川を排水路化し、山を削ってたくさんの田畑が作られました。そういった裕福だった自治体ほど今では高齢化が進み、過疎化しています。

昔は地域の川が洪水になりそうであれば一致団結して守ろうとしたものです。今では川がしっかりと整備され洪水が起きにくくなりました。そのため、台風が来ている時にいろいろな町へ川の様子を見に行っても地域の人の姿は見当たりません。『川は役所で管理するもので地域のものではない』と、認識が変わってしまったのです。

そういったなかにも『川に魚がいないのはおかしい』と感じ、動き出す地域もあります。いろいろな地域で『魚が住める川づくり』についてかかわってきましたが、人と人がつながりが深まり地域が変わって行く姿を目の当たりにします。川を良くしていくことは地域にとって大変意義のあることなのです。



—昨年、町内の高橋の沢川で妹尾さんの指導のもと行われた石積み



川の水で生きてきた 私たちが、 受けた恩を返すとき

ハサンベツ里山計画実行委員会

事務局長 高橋 慎さん

私たちは今まで川の恩恵を十分に受けて生活してきました。栗山町の基幹産業である農業では、川から流れる水がなければ農作物を育てることができません。川の水があつてからこそ、私たちが生きていくために必要な食料が作られるのです。その川に恩返しする時が来

子どもたちの「ふるさと体験学習」では、川を楽しんでもらう学習を進めています。川で遊ぶ子どもたちの目は輝きが違います。楽しんで、たくさん思い出を作って、ふるさとを流れる川を好きになつてもらいたいです。サケが帰るようになれば子どもたちの目はもっと輝くに違いありません。



ふるさと体験学習の様子。流れに身を任せ流れを体で感じている。

先 人たちは、いろいろな苦難を乗り越え、それを語り継いで

きました。私たちにも先人が築いたまちづくりの魂が受け継がれています。私たちの取り組みも、これからの栗山を作っていく青年や子どもたちに語り継がれるようなものにしなければなりません。その精神こそがまちづくりの魂だと思っています。

ているのではないでしょう。か。私たちは今まで、川の水を好きに使い、時には石炭で真っ黒の川にしました。私は、生物がたくさん住んでいた昔のような姿に戻すことが一番の恩返しだと思っています。生物が増えて川もきれいになる。そしてサケが帰る。そうすれば、たくさんの人がふるさとに愛着がわくのではないのでしょうか。

お母さんより 自然に関心をもってもらう良い機会だと思いき親を始めました。娘もサケをかわいがって飼育を楽しんでいます。昨年、娘が河川清掃に参加したと言いました。自然を大切にする気持ちも芽生えているようです。放流したサケが遡上する様子を親子で見ることができたらいいですね。

優希さん

サケはとてもかわいい。放流したら家からいなくなってしまうけれど元気に栗山まで帰ってきてほしい！

サケの里親に聞く



栗山青年会議所ですすめているサケの里親事業。参加している親子にインタビューして来ました。



美しい自然を 次世代に引き継ぐ 責任がある

栗山町長 椿原紀昭

自然環境を整えることは、ふるさと教育に良い影響を与えます。なにより子どもたちが本物の自然環境を教科書代わりに体験することが出来るからです。子どもたちにとって最高の学びの場だと思っています。子どもたちは自主的に遊び方を工夫し創造する力を養い、生き物を通して命やものを大切にすることを学びます。教科書で勉強することももちろん大切なことです。ふるさとの自然を体で感じながら成長していくこともとても大切なことでないでしょうか。

栗山にある河川を通してサケが遡上していくことを想像しただけでワクワクします。サケが遡上する様子を橋の上からたくさんの親子が眺める。そんな光景が早く見られるように願っています。

昔、夕張川は「男の川」とも呼ばれるほど流れが急で、水害が多く、洪水が起るたびに住民は力をあわせて戦っていたといえます。今では整備され、水害もほとんどなく、安心して暮らせるようになりました。しかし、川を地域で守るという意識は薄れているのではないのでしょうか。

取材を終えて

自然環境を整えて行くことはとても大きなテーマです。

山町は良い川づくりについて地域の方の関心も高く、魚類などを上流に上らせることは良いことだと思います。我々は現在、地域の方と協力してサケなどの河川環境の調査も行っています。引き続き地域の方と知恵を出し合って夕張川の河川環境をより良くしていきたいと思っています。

魚がのぼりやすい 夕張川を目指して

国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部
江別河川事務所

佐々木 徹 所長



成9年に河川法が改正され、治水・利水とともに川の環境整備と保全に対する重要性が明確に示されました。平成17年に策定した石狩川水系夕張川河川整備計画にも夕張川を魚の住みやすい環境にすることが盛り込まれています。魚の視点で夕張川を下流から見てみると、栗山町まで移動して行く間には南幌町の『清幌床止』（昭和12年完成）と岩見沢市・長沼町にまたがる『栗沢頭首工』（昭和34年完成）という2つの大きな構造物があります。

ひとつ目の施設である『清幌床止』の「床止」とは、川の流れによって川底が深く削られるのを防ぐ施設のことです。開拓当時の夕張川下流は蛇行し、千歳川に合流していたため多くの洪水を起こしていました。これを解消するために夕張川を石狩川まで直線つなぐ大工事が大正11年から昭和11年にかけて行われました。これが現在の夕張川新水路であり、土木遺産にも認定されています。直線になった夕張川は河床の勾配が急になり、水の勢いで川底や川岸を激しく削ってしまうようになりました。清幌床止は

その対策として作られました。以来、老朽化により昭和61年〜平成5年にかけて全面改築、平成22年3月には既存の魚道の改良工事を実施し、サケなどの大型魚や、カニ、エビなどの底生生物も移動できるようにしました。ふたつ目の施設である栗沢頭首工（昭和34年完成）は岩見沢市の栗沢地区へ農業用水を送るために作られた、私たちの生活にとって重要な施設です。しかし、古い施設のため魚道が設置されておらず、魚が上流に移動できない環境にあります。



昨年秋に栗沢頭首工の下流側で行われた生物調査

サケの稚魚放流会

今年で6年目の放流になります。昨年の秋にはたくさんのサケが帰ってきました。皆さんの手で夕張川をサケが自然産卵できる川に戻しましょう。

【申込先・問い合わせ】

栗山青年会議所事務局 川合（栗山商工会議所内 ☎ 73-2345）

4月6日土

場所：雨煙別小学校
コカ・コーラ環境ハウス

スケジュール	9:30 ~ 10:00	集合
	10:00 ~ 11:00	勉強会
	11:00 ~ 12:00	稚魚の放流
		解散予定

Meeting まちづくり審議会・委員会【委員の公募】

町では、町民参加の機会を広げるため、各種審議会・委員会などの公募を推進しています。

① 栗山町地域密着型サービス運営委員会

- 協議内容
 - ・サービス事業所の指定、介護報酬設定に関すること
 - ・サービスの質の向上と運営評価に関すること など
- 公募人数 2人（総委員数 10人）
- 期 間 平成 25 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日（2 年間）
- 会 議
 - ・年 2 回程度（平日の夜間開催を予定）
 - ・会議 1 回出席につき 3,000 円の謝礼
 - ・この会議は原則公開となります。
- 応募資格
 - ①町内に在住、在勤または在学されている満 18 歳以上の方
 - ② 3 機関以上の町の審議会・委員会などの委員になっている方は応募できません。
- 応募期間 3 月 1 日（金）～ 25 日（月）必着
- 応募方法
 - ・専用の申込書に必要事項を記入し、下記申込先まで提出してください。
 - ・提出は郵送、FAX、電子メールでも構いません。 * 申込書は返却しません。
 - ・申込書は下記申込先でお渡ししますが、町ホームページからもダウンロードできます。
- 決定方法 申込書による書類選考および面談
- 申込先・問い合わせ
 - 町住民福祉課 高齢者・介護グループ ☎ 73-7507 FAX 73-2266
 - E メール koureishakaigo-g@town.kuriyama.hokkaido.jp



【地域密着型サービスとは？】
高齢者が中重度の要介護状態になっても、可能な限り住み慣れた地域での生活を継続できるよう支援するもの。
町には、グループホーム（認知症対応型共同生活介護）とデイサービス（認知症対応型通所介護）の 2 種類があります。

② 栗山町地域包括支援センター運営協議会

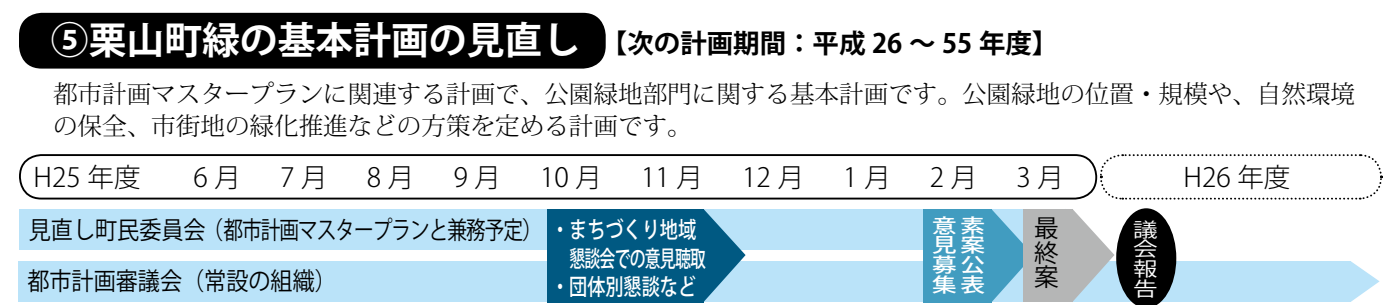
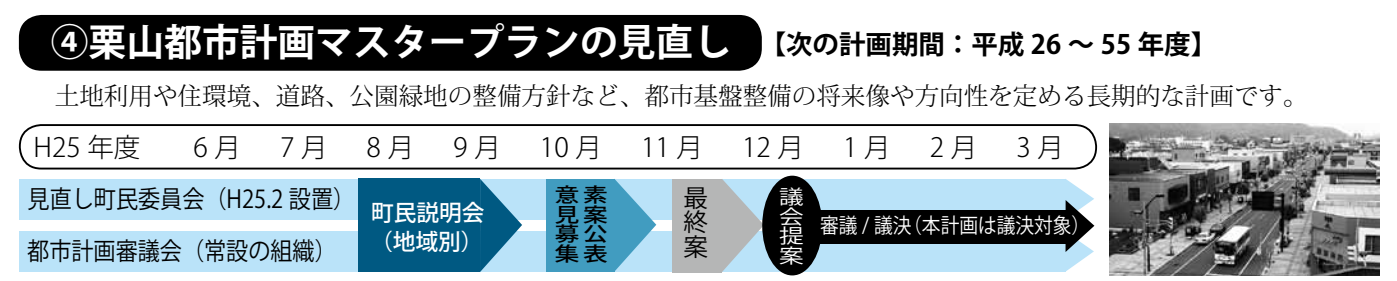
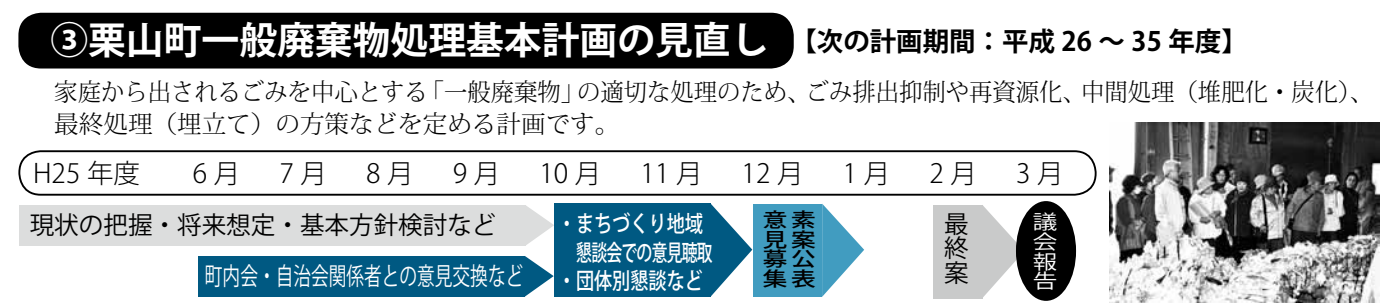
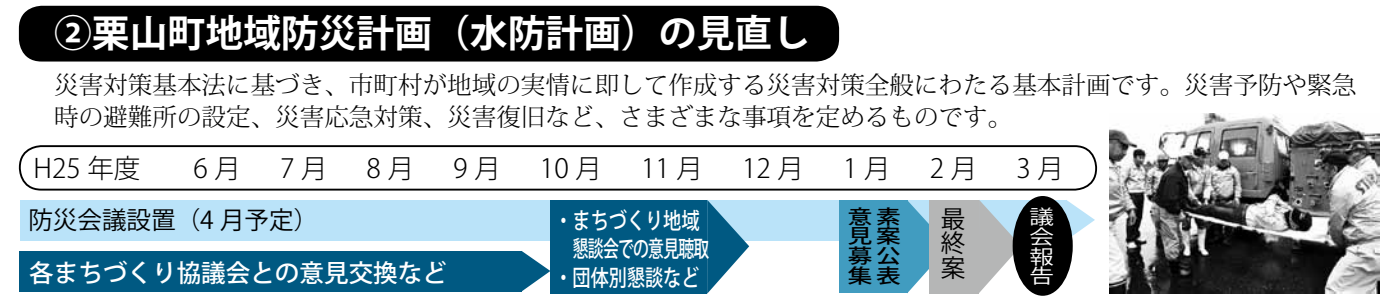
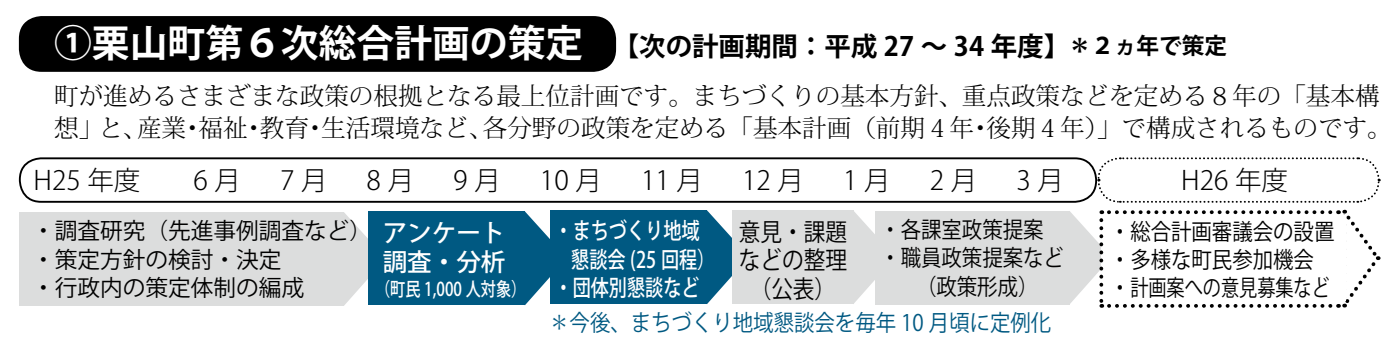
- 協議内容
 - ・地域包括支援センターの設置や運営に関すること
 - ・地域包括支援センターの業務内容の評価 など
- 公募人数 2人（総委員数 10人）
- 期 間 平成 25 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日（2 年間）
- 会 議
 - ・年 3 回程度（平日の夜間開催を予定、90 分程度）
 - ・会議 1 回出席につき 4,000 円の謝礼
 - ・この会議は原則公開ですが、協議内容に個人情報が含まれる場合は非公開となります。
- 応募資格
 - ①町内に在住、在勤または在学されている満 18 歳以上の方
 - ② 3 機関以上の町の審議会・委員会などの委員になっている方は応募できません。
- 応募期間 3 月 1 日（金）～ 25 日（月）必着
- 応募方法
 - ・専用の申込書に必要事項を記入し、下記申込先まで提出してください。
 - ・提出は郵送、FAX、電子メールでも構いません。 * 申込書は返却しません。
 - ・申込書は下記申込先でお渡ししますが、町ホームページからもダウンロードできます。
- 決定方法 申込書による書類選考および面談
- 申込先・問い合わせ
 - 町住民福祉課 高齢者・介護グループ ☎ 73-7507 FAX 73-2266
 - E メール koureishakaigo-g@town.kuriyama.hokkaido.jp



【地域包括支援センターとは？】 * 役場内に設置
社会福祉士・保健師・主任介護支援専門員などの専門職員で構成し、保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなど、高齢者の暮らしを総合的に支援する機関です。

Plan 平成 25 年度 策定・見直し予定の 主なまちづくり計画【スケジュール概要】

町では、平成 25 年度より、最上位計画となる総合計画をはじめ、まちづくりの基本的な方針を定める各種計画の策定・見直しを進めます。段階に応じて、随時、情報を公開し、町民の皆さんが参加できる機会を提供していきます。
◆問い合わせ 町経営企画課地域政策グループ ☎ 73-7502



知っておきたいまちの予算

栗山町の予算と財政状況

vol.11

【問い合わせ】
町経営企画課
行政経営グループ
☎ 73-7503

貴重な「声」を町政へ！

財政モニター制度の取り組みを通じて 分かりやすい財政情報の発信

まちの予算や決算、財政状況などを分かりやすく町民の皆さんに伝えていくことや、多くの方に関心を持っていた

多くの方に関心を持っていた。平成24年6月より新たに「財政モニター制度」を始めました。一般公募モニターとして4人、中学校、高校からの推薦モニターとして5人、計9人の方に、財政モニターを委嘱しました。

1年間の任期の中で、財政に関する基礎知識やまちの現状を学んでいただいたほか、一般モニターの方には、毎月掲載してきました「知っておきたいまちの予算」を事前に確認していただき、それぞれ

が思う疑問点や改善点などの意見を取り入れた内容へと修正してきました。

まちの予算や決算などの財政情報を分かりやすく伝えていくうえで、モニターの皆さんからいただいた意見や感想は、とても貴重でした。時には「良かった」と励まされ、時には「分かりにくい」と指摘をいただき、さらなる改善とともに、読む側に立った考え方が不足していたことに気付かされました。また、一つの情報に「良い」「悪い」の両方の意見が寄せられることもあり、真意を読み解き、より分かりやすい内容へと生かしてきました。

平成24年度の最後となる今月号では、これまでご協力をいただいたモニターの皆さんからの意見や1年間の感想などを紹介します。

次年度は財政情報の発信をさらに充実させるため、広報やホームページでの発信に加えて、まちの予算概要などをまとめた冊子として、「平成25年度予算説明書」の発行を予定しています。

これまで、掲載することができなかった情報などを深く掘り下げて伝えていくなど、分かりやすい的確な財政情報の発信に努めていきます。



モニターの皆さんから・このような意見をいただきました

■常に危機感を持ったスタンスで

知っておきたいまちの予算の中で、「財政状況が改善しています」というような抽象的な説明がありましたが、単に課題の先送りの誘因になる危険性があります。楽観的な考え方よりも、常に危機感を持ったスタンスの方が良いかと思います。

■さまざまな年代が分かる誌面を

広報紙全体に言えますが、子どもが読むという観点が極端に排除されているように感じます。これからの時代を支える子どもたちに、まちの財政状況を伝える具体的な検討が必要だと思います。

■分かりやすい誌面内容の検討を

まちの予算、決算などを一般家庭の家計簿に置き換えた形での公表や、他市町村との財政状況の比較など、できるだけ多くの方が理解しやすい内容での情報発信を望みます。

■必要最低限の情報を常に伝えられる仕組みの構築を

広報誌の情報は全ての方が理解される内容を、ホームページや個別で配付する情報はより詳細な内容を伝えていくなど、読み手側を意識した区分けが必要だと思います。それぞれの情報伝達手段が役割を分担することで、より多くの情報が提供される仕組みの構築を望みます。

平成25年度予算の審議と公表

3月1日から開催される3月議会において、平成25年度予算について審議されます。議会を傍聴していただき、私たちのまちの予算がどのように審議され、決まってくるのか、ご覧ください。

また、決定した予算につきましては、平成25年度より新たに発行する「予算説明書」において、詳細にお伝えしていく予定です。予算の仕組みから各会計予算の概要、総合計画に基づき実施する主な事業の紹介、決算に基づくまちの財政状況などをまとめています。広報くりやま4月号とともに町内全家庭へ配付を予定していますので、まちの税金がどのように使われ財政を運営しているのか、ご確認ください。

財政モニターの皆さんより

財政モニターとして、取り組みに参加された感想のほか、今後の町財政に対するご意見などをいただきました。

一般公募モニター



丸山 俊信さん
(湯地)



青木 隆夫さん
(湯地)



大沼 英明さん
(松風2)



丸山 富子さん
(朝日4)

◆夢のある町に……

栗山町の明日を担う子どもたちに夢のある町を残してあげたいと、少し気負って財政モニターに取り組みました。ですが、毎月送られてくる原稿に汗は出れども知恵は出ずの現実。この冊子が町民の皆さんに届き、知恵が集まることを期待するばかりです。スタッフの皆さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。

◆適正な財政運営を……

町の住人となって4年目。モニターとして町への参加ができた良い機会でした。「お任せ」や「ないものねだり」ではない、私たちの考えで、これからの地域と向き合いながら、選択する自治を進めたいものです。その意味でも、より良い政策をもとに、効率的で調和のとれた適正な財政運営を進めていくことが望まれます。

◆大きな前進に……

今回のモニターは、大人と学生のコラボにより、町政へ参加できたことに、大きな前進を感じました。これにより学生の皆さんは、「まち」の授業に少しでも関心を持てれば良いと思います。今回の参加により、以前よりお金の使い道が理解することができ、良かったと思います。ひとりでも多くの財政モニターへの参加を望みます。

◆多くの充実が……

毎月届く原稿を手で専門用語の羅列に戸惑い、ため息の連発。見かねた主人が助け舟を出してくれ、久しぶりの緊張感の中にも多くの充実がありました。「生活の中に緊張感が無くなると目に見えて老ける」と言った人がいましたが、モニターとしての資質はともかく、もう少し続けてみようかと思えるようになりました。

学校推薦モニター



安田 光さん
(栗山高2年)



山口 実久さん
(栗山中2年)



信太麻由子さん
(栗山中2年)



横岡 誠也さん
(継立中3年)



西下 珠令さん
(継立中2年)

◆学生が分かる工夫を……

財政の知識がない私にとって、今回のモニターは大変勉強になりました。今後、より多くの町民の方、特に学生に町の予算を知ってもらうためには、さらに分かりやすく説明をする工夫や仕組みづくりが必要かと思えます。

◆まちの授業を受けて……

最初は言っていることがさっぱり分からず話を聞くだけで精一杯でしたが、学習会を設けていただき少しは理解できるようになりました。学校の授業などでは知ることができない町の現状などを知ることができて良かったです。

◆とても良い経験に……

専門用語などが難しかったですが、学習会を通して、理解できるようになりました。モニター会議では積極的に発言できましたが、とても良い経験になりました。この貴重な体験を将来に役立てていきたいです。

◆今後の参考に……

初めは、何も分からなかったのですが、どんどん意見を言う一般モニターの皆さんに圧倒されていました。しかし、学習会を重ねていくにつれて、財政の仕組みや町の現状などを知ることができ、大変勉強になりました。

◆町民全員で協力を……

最初は、分からない事ばかりでしたが、学習会の説明などを通じて町の現状を知ることができ、このままではいけないということが分かりました。今後、国の税金に頼らないよう町民全員で協力し合いたいと思います。